



木曾のデート沢発見！

## 御岳南面 王滝川上黒沢東俣～本谷下降

田辺

【日時】 2009年8月30日(日)

【メンバー】 L田邊、吉岡小、田辺

木曾の名～はなかのりさあん。の御岳山、南面の沢。W たなべと新人吉岡さんとの珍しいトリオです。会山行が中止と決まって、早い展開でできた混成 P。登川丸ノ沢に釣られた新人だったが、天候のことを考えて西にふって正解だった。しかも沢もなかなか秀逸であった。



名古屋 ACC の記録を見て、ゴーロが長いかもと、新人に対し、佐貫さんからの「ゴーロを制するものは沢を制す」という言葉を伝え、遡行し始めた。だが、しょっぱなの滝から攻めるリーダー。はじめの一步が難しいが、やる気満々の新人がとりつくが、するっとドボン。上からお助けがやって

きて、頼もしいリーダーからの実地研修となる。この新人は、沢での歩きがなんとも堂にいてるので、新人な感じがしないのが不思議だが、登りになるとしおらしくなっている。「岩トレ」命令がでるが、若さでやってくる。いいねえ。

深い森と苔むした落ち着いた沢だが、滝もある。しかも登れる滝が続く。シャワークライムも楽しく、薄日がさし、なんと至福な沢日和になってきた。ただ、リーダーは濡れる沢とは予測してなかったのだが、立った壁にとりついてもらったが、剥がれる岩と共にドボン。一瞬ヒヤリとしたが、ただ、濡れ

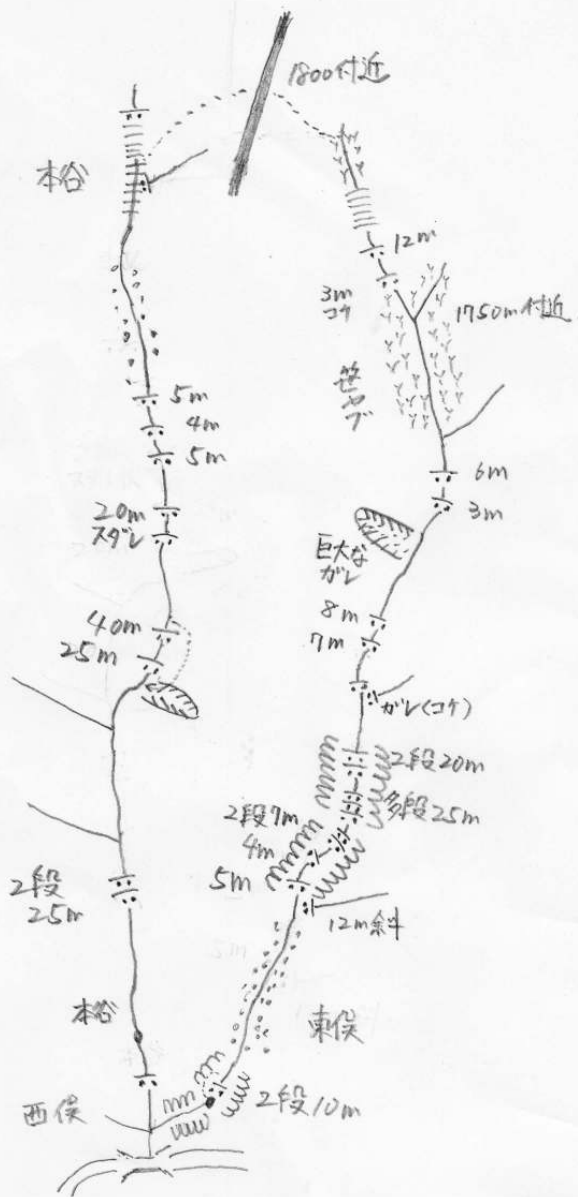




ただで一安心なのは、当事者ではないから。立った滑ったギリギリを巻くリーダー。うわっ、なんかいやだわ。と、その手前の泥っぼいところを登っていると、新人がいない。すると「こっちの方が楽です〜」っと三人三様で巻いたのはここだけ。という楽しげに登っていく。ナメも現れ、スダレ状の段差の滝がリズムカルに続き、時にシャワーで夏らしい。伏流、笹が覆いかぶさり、源頭チックになるのだが、記録だと、ここから未だ滝があるらしい。うそのようだが、ほんとうだった、垂直のたったチュロチョコロ白糸滝からは、支尾根を越えて本流へ入る。藪に慣れてる新人はここでも元気だ、たくましい。本流は2条の滝の下に降り立つ。しかもナメ床。なんて美しい。クライムダウンや、巻き、懸垂も交えて、下降していくが、一カ所、連続屈曲滝にひっかかり、巻きで難儀した。勝ち気な新人がなんだか疲れている。根曲がりのトラバースである。どうにか、降り立った、THEザレバ！ モ〜大変なぐらいのザレ方でした。三人でガラガラザザザ〜、ゴロガラザレレ〜。新人の提案により、安定したところをよっちき下降して、無事に降り立つ。その後も、ザイルで懸垂したり、クライムダウン。いい訓練になったでしょう。振り返ると、ばば〜となかなかのスケールの滝が美しい。時間もおしてきたので、もくもくと下って、入渓点の三俣に戻って終了。ちょっと時間がおしたが、林道を登り降り、ゲートで連絡がつき、一安心。帰りの王滝の湯も白濁しまろやかなで素晴らしかった。がその後、恐怖の激痛におそわれた、未熟者の晴子であった。

【行程】 林道ゲート8:50～西黒沢本流9:20～東俣～二俣13:00～支尾根乗越下降  
～本谷14:40/50～林道17:30～ゲート18:00

【地形図】 御岳山、滝越



御嶽南面  
 王滝川支流上黒沢  
 東俣 ~ 本谷  
 2009. 8. 30  
 L 田邊, 田邊(利), 吉岡